

今週の富大生

Weekly TOMIDAISEI

第74号

持続可能社会創成学環
グローバルSDGsプログラム
修士2年
東京都立豊多摩高等学校
(東京都出身)



東京から富山へ

幼少期から、親に動物園や水族館に連れて行ってもらうことが多く、生き物が好きでした。高校の勉強でも生物と化学が好きで、理学部で自然や生物系のことを学びたいと考えました。当初は都内から通える国公立大学を考えていましたが、センター試験の結果を見て進学先を再考しました。富山大学の理学部生物圏環境科学科（現在の自然環境科学プログラム）では高山帯の立山から深海の富山湾までの幅広い環境でフィールドワークができると知り、進学を決めました。

富山の生活で四季を感じる

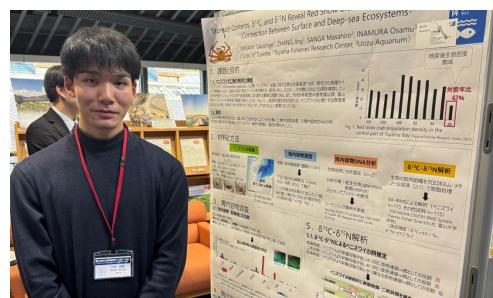
富山に来てから、四季の移り変わりを強く感じるようになりました。まず、食において旬を感じることが出来ました。春はホタルイカ、冬はカニや寒ブリなど、海の幸がとても美味しくて感動しました。おわら風の盆という祭りでは秋を感じ、冬になると雪が降ることも新鮮でした。東京では体験できなかったことでした。

フィールドワークの船舶実習

2020年の4月に入学し、コロナ禍の真っただ中でした。オンライン授業のみで、オリエンテーションもなく、友人もいない中、地元への帰省もできませんでした。そういった日々を過ごした後に、2年後期から少人数でのフィールドワークが始まり、ワクワクしたことを覚えています。張勁教授が担当するフィールドワークに参加しました。船に乗って2泊3日、海の研究をします。子どもの頃に観光船に乗ったことはありますが、研究の船とは全く異なりました。船内で寝食をし、4人1部屋です。張先生のエネルギーッシュな指導が面白く、この分野でもっと研究してみたいと思うようになりました。富山大学に進学した理由もある、生物の研究を環境の視点から進めたいと思いました。3年後期の仮配属から、張勁教授の環境化学計測第Ⅱ講座で研究することに決めました。

ベニズワイガニの生態を解明し、学会受賞

富山湾の豊かな資源の中に、ベニズワイガニがあります。普段何を食べているかは知られていません。深海1,000メートルに生息しているベニズワイガニの胃の内容物を調べました。それだけでは直近のものしかわからないので、同位体というものを計測することで数週間の間に食べたものを調べました。富山湾はイワシやサバなどの表層魚類が豊富なので、そういう魚類を食べていることが判明しました。2025年度水産海洋学会研究発表において、若手優秀講演賞を受賞することが出来ました。



高校の後輩たちへ

大学受験は大きなプレッシャーがかかり、とても大変だと思いますが、最後まであきらめずに頑張ってください。大学に入学すると、自分の趣味や好きなことに思いきり取り組める時間がたくさんあります。皆さんの努力が実を結ぶことを心から応援しています。

お世話になった高校の先生へ

剣道部での練習や大学受験に向けた勉強では、大変なことも多くありました。そうした経験が大学での研究活動において困難を乗り越えるための大きな原動力となっています。これからも高校時代の経験を糧に、さまざまなことに積極的に挑戦していきたいと思っています。